



《 巻 頭 言 》

研究課題への取組

福島県小学校長会北会津支会会長 小林 義弘
(会津若松市立小金井小学校)

令和5年8月に会津若松市において「第52回福島県小学校長会研究協議会会津大会」が開催されます。昨年度の東北連合小学校長会研究協議会を兼ねた福島大会は、残念ながら紙面開催となりましたが、次年度はコロナも収束に向かい、県内各地から多くの校長先生方をお迎えし、実り多い大会にできれば…と願っています。

現在、次年度開催に向けて北会津・耶麻・両沼・南会津の4支会で組織した委員会を立ち上げ、「会津は一つ」を合言葉に、連携して準備を進めています。会員の皆様のご協力をよろしくお願いします。

さて、研究協議会では10の分科会に分かれ、各地区・各校での実践を元に協議されるわけですが、みなさんはどのような思いでこの研究課題に取り組んでいらっしゃるのでしょうか。お恥ずかしいのですが、以前の私は「めんどくさい」と思っていました。自分の学校には様々な課題があり、目の前の子どもたちのために何とかしなくては…と、日々悩み、考え、取り組んでいました。当然、他の課題に取り組む心の余裕などありません。ですから、真剣に研究課題に取り組んだかと聞かれると、「いいえ」と答えるしかありません。ごめんなさい。

しかし、いろいろな場で様々な校長先生方の話を伺うと、今だけでなく将来のことも見据えながら、今できることは何かを追求し実践しているという話を聞くようになりました。確かに、現任校では研究課題のような問題は起こっていないかもしれませんが、しかし、今後起こるかもしれませんし、異動先の学校でそのような問題が起こっているかもしれません。また、今後校長になった先生方が直面するかもしれません。私は、自校で起こっている問題に対応し、目の前にいる子どもたちのために取り組むことが校長としての務めだと考えていました。反省です。研究課題への取組で校長の在り方や働きかけが具体化され、多くの学校でよりよい学校経営に生かされるのであれば、こんなに素晴らしいことはありません。経験年数や学校規模、地域性など違いはありますが、どの校長先生方も様々な課題を抱えています。課題に取り組んでいる校長先生方の実践が、同じような課題を持つ多くの校長先生方の指標となるのです。

本県の研究は、研究課題を通して「ふるさとを愛し ともに未来を切り拓くたくましい子どもの育成」を目指しています。みなさんの取組は、私たちの「宝」です。今、校長として活躍されている方はもちろんのこと、これから校長になる方のためにも、たくさんの「宝」を作っていきましょう。次年度の会津大会は、私たちの取組が磐梯山のように「宝の山」となること、間違いなしです。



《 堤 言 》

校長の姿勢

前福島県小学校長会北会津支会会長 石本 浩一
(北塩原村教育委員会教育長)

広報「北会津」への最後の原稿は、校長職を終えた今、自身の学校経営を反省し、校長としてあるべき姿勢について考えてみました。

- 学校をよくするために何をなすべきかという目的意識をもつ「逃げてはいけない」

校内巡視を繰り返す中で、人的・物的環境の実態を的確に把握し、見えてきた課題の解決について悩み続け、本質的なポイントを明確にしていくことです。問題は現場で起きているのですから現場を見なければなりません。教育の質を落とさないためにも校長室から外に出て、子供たちの声を聞いて対処していくことが大切ではないでしょうか。

- 決断は的確な状況判断の下に的確なタイミングで「食客三千」

拙速でも決断しなければならない場合もあります。逆に、早く判断しすぎて混乱することもありそのタイミングが重要です。また、決断は目先のことだけで行うのではなく、大局的な見地も十分に考慮した上で行う必要があります。人事などはまさにこの視点ですね。これらのことは非常に難しいですが、日頃から努力して判断のための情報を豊富に集めておくことが大切です。いらない情報は捨てればいいのですから。

- 学校の教育活動の根幹は毎日の授業にある「オーダーメイドの人材育成」

教員は「子供にとって頼りになるいい先生になりたい。よくわかる授業をしたい」という思いをもっていることを信じ、毎日の授業参観を通してその意識を刺激しながら、個に応じた適切に助言し専門性と実践的指導力を高めていくことが大切です。初心者マークの運転手がドライブを楽しめないのと同じように、キャリアのない教員は授業を楽しめないし、自己流に染まってしまうと暴走してしまいますから。

- 危機管理に適切に対応する「リービッチの桶」

学校では、日常起こらないような児童や教職員に係る事件や事故等が起きた場合、組織として危機管理に対応できるようになっていない場合が多いのではないのでしょうか。企業や官公庁では、社長、部長、課長などと管理職が多くそれぞれに対応可能ですが学校には二人しかいません。また、苦情処理にしても最初の段階で失敗すると、対応の仕方の悪さへと2次クレームに発展してしまいます。校長には、現場で陣頭指揮し、その渦中に立つという覚悟はあっても、全てを判断しようとしてしまうから混乱が生じるのです。関係諸機関との連携を日頃から十分に図っておくことが大切です。

さて、偉そうなことを述べてきましたが、私にとっての2年間は失敗と後悔と懺悔の連続でした。でも、もちこたえられたのは、教頭先生が中心となって職員組織をまとめ上げ、一致団結して難しい課題を解決していったくれたからです。ここで結論です。校長として一番大切な姿勢は、教職員と心をつなぐことではないのでしょうか。

北会津小学校長会の皆様、2年間たいへんお世話様になりました。



ご退職校長先生からの メッセージ

「スパイスカレー」

前会津若松市立永和小学校 阿部 秀樹

中火で紅花油でクミンシードを十分炒め香りを立たせる。刻んだニンニク・ショウガを入れ、強火にして細切りタマネギを加え、しんなりして縁が色づくまで炒める。

よし、これで「ベースの香り」が完成。

トマトを木べらでつぶしながら炒め、弱火に。そこへ、パウダーのターメリック・コリアンダー・レッドチリと塩を加え炒めると、いい香りが漂ってくる。

「中心の香り」まで完成。

水を注いで強火にし、2時間ほど前に塩とブラックペッパーをふっっておいた鶏肉を加えて一煮立ち。弱火にもどして20分ほど煮、最後にローズマリーを加えて混ぜ合わせたら火を止める。すごくいい香り。

これで「仕上げの香り」と共に、簡単スパイスチキンカレーの完成だ。

退職後、念願のスパイスカレーを作り始めた。必要なスパイスを揃えることも含め、時間があるからこそできることである。

親の介護や家の補修など、やらなければならないことはたくさんあるが、時間がたくさんあるのが、退職後のいいところ。

妻と2人での毎朝の5kmのウォーキングも含め、健康にも気を付けながら、もっと、ずっと、やりたいことができればと思う。

北会津小学校長会の皆様には、現職中大変お世話になりました。コロナ禍も大分おさまってきた中、皆様のますますのご健勝とご活躍をお祈りいたします。



ご退職校長先生からの メッセージ

「健康第一」

前会津若松市立神指小学校 大西 恒夫

北会校長会の皆様には、2年間たいへんお世話になりました。アットホームで温かい雰囲気の中で、たいへん充実した日々を過ごさせていただきました。わからないことや困ったことがあると、丁寧に教えていただき、助けていただいたことが、数多くありました。

さて、退職して時間がたくさんあるとついつい怠け心が出てきてしまい、ただ、ぼんやりと時間を過ごしてしまいます。これではだめだと、有意義な1日を過ごそうと始めたことがあります。健康管理も兼ねて、ウォーキングを朝と夕方に4時間程度行うことを自分のノルマとしました。散歩をすると今まで気づかなかったことが多かったことがわかります。春には、散歩道に菜の花やスイセン、花が咲き乱れ、とても気持ちよくなります。また、朝には、農作業や配達業の方など、こんなにも早くから仕事をしている人がいることにも気づきました。夕方には、ただ、ぶらぶらと歩いているだけなのに、心が落ち着いてきて、明日への活力につながっています。

もう一つは、サイクリングです。これもダイエットと気分転換を兼ねて行っています。いずれは、距離を伸ばして行って県外にでも出かけていきたいと思っています。

そんな生活をしながら、今のところ自己満足の充実した日々を過ごしているところです。



転入校長所感

「謹教小の宝」

会津若松市立謹教小学校 長沼 敬貴

元来、中学校籍の私が伝統ある謹教小に務めることになるとは夢にも思っておりませんでした。風のたよりによれば、「校長が怖くて小学生が泣くのではないか」と心配された方もおられたと聞きましたが、その点は今のところ大丈夫です。

約1ヶ月の謹教小勤務の中で、私は様々な「謹教小の宝」を見付けました。「なよたけの詩」「日新館にあった洗心橋」等、150年の歴史と伝統の重みを実感する宝がたくさんあります。

また、謹教小と言えば、今年で45回を数える公開授業研究会を開催している研究推進校です。今年度も連休明けには2日間に渡り要請訪問を実施し、全ての担任が研究授業を行いました。

要請訪問に向け、教材研究、授業案作成等に追われている教職員の姿を見て、年度当初の子供たちとの関係づくり、学級づくりに支障が出るのではないかと少し心配しておりました。

しかし、5月の要請訪問における子供たちの姿を見て、私の不安は払拭されました。学びに向かう真剣な表情、意欲的な発言、そして、何よりも学ぶことの楽しさを実感した多くの笑顔。忙しい中でも熱い情熱とプライドをもって、子供たちに接し、研修に励む本校の教職員のすばらしさを目の当たりにし、この集団（チーム）こそが、謹教小の一番の宝だと確信しました。今後は、この「謹教小の宝」とともに子供たちの学びを前へ前へ進めていきます。

北会津支会の校長先生方には、様々な面でお世話になります。小学校長初心者ですので、何卒よろしくお願いいたします。

転入校長所感

「初心を忘れずに」

会津若松市立永和小学校 笠原 聡

この4月に、永和小学校に赴任をしました。会津若松市勤務は、9年ぶりになります。これまで校長として、両沼地区、耶麻地区を経験し、今回この北会津地区でお世話になることになりました。よろしくお願いします。

校長として3校目となる本校は、今年度全校児童83名と小規模な学校ですが、素直で人懐っこい子が多く、校舎内を巡視しているわたしを見かけると「校長先生」と声をかけてくれます。職員は、ベテランの先生もいますが、採用から5年以内の職員が全体の3分の1を占めています。

このような学校に赴任をした際、校長に昇任した時の初心を忘れずに職務に取り組もうと考えました。わたしの昇任希望の理由は、校長として「これまでの経験を生かした学校づくり・学校運営に取り組みたい」、「学校の基盤となる教職員を育成したい」というものでした。

本校の子どもたち一人一人の力を引き出し、最大限に伸ばしていくために、これまで携わってきた社会教育の経験から、学校、家庭、地域の協働による教育を推進していきたいと思います。また、日頃から職員とのコミュニケーションに心がけ、若手職員の今後の職務に生かせるような知識や技能などを伝えていければと考えます。

今後も研究と修養を積みながら、校長の職務を遂行していきたいと思います。



転入校長所感

「躍動感あふれる教育活動を」

会津若松市立神指小学校 高橋 由江

「先生、お久しぶりです。」かつて若松六中に勤務していた時にお世話になった地域の皆様、現在保護者となった教え子等にお声をかけて頂くたびに、本校に赴任したことに大変ご縁を感じています。そして、校長として、「地域とともにある学校づくり」を柱として、子どもたち一人ひとりにこれからの時代に必要な力を身につけさせなければならないという決意を新たにしています。神指小学校の校長室には、「躍動」という文字が掲げられています。意味は、ご承知のように、「力にあふれて生き生きと活動すること」です。新型コロナウイルス感染症拡大防止や多忙化解消に努めながら教育活動を進めているわけですが、「躍動感あふれる教育活動の実践」は時として厳しいものがあります。しかしながら、子どもたちの立場にたって、「できない」というのではなく、「どうしたらできるのか」という視点で、アイデアを駆使しながら、教職員とともに取り組みたいと考えます。また、神指地区は、神指城跡や高瀬の大河やきなどの史跡も多く、文化性の高い地区でもあります。地域学校協働活動との連携を密にしながら、地域の環境・文化・歴史や人と積極的に関わることによって、地域理解に努め、地域に対する誇りをもつ子どもたちを育てていきたいと思ひます。

北会津地区校長会の皆様、どうぞよろしくお願いいたします。



アイデア実践

「毎朝の日課」

会津若松市立鶴城小学校 山岸 実

朝は子どもたちを出迎えることから始まります。

7:30 黄色い旗を持ち、A i C T角の交差点に立ちます。あいづっこ宣言と関連づけながら挨拶に力を入れています、進んで挨拶できる子どもを育てることが課題の一つです。

7:55 登校を見届け、学校の外側の道路をゴミを拾いながらぐりと回ります。お城の北出丸に続く道路を「マイロード」と呼び、秋には6年生が落ち葉掃きで汗を流します。代々続く朝のボランティア活動は半世紀を迎えようとしています。

昇降口へ戻ると、PTA役員の皆様が児童の送りに訪れた車の交通整理を行ってくださっています。その際、PTA担当を交えて情報交換をしたり、役員会の打合せをしたりします。出勤前のご多用の時間に協力をいただいていることに感謝です。

8:15 ボランティアの皆様による読み聞かせがあるときは教室を回り、子どもと一緒に聞かせていただきます。これまた感謝です。

8:30 1校時目の始業に合わせて校舎巡視。出席状況を見ながら見回ります。授業の邪魔をしないように、そっと手を振りながら子どものがんばりに応えます。

朝からの出張がないときは、このようなスケジュールで一日がスタートします。

「足で稼ぐ校長」をモットーにしていますが、フットワークがだんだん重くなっている気がします。鈍くなった気持ちと足腰を奮い立たせ、心も体も身軽に動けるようにこれからも努めていきたいと思ひます。

アイデア実践

「シン・P T A」

会津若松市立東山小学校 高原 昇

本校は、来年度創立150周年を迎える。それに合わせ昨年度からP T A改革を行っており、今年度を試行の年と位置づけ取り組んでいる。

テーマを「すべては子どもたちの笑顔のために」とし、子どもが笑顔になるためにはまず大人が笑顔でなければいけない。そこで、義務や強制をやめ、すべての活動を「できるひとが できることを できるときに たのしくやる活動」と定義し、「ボランティア」で運営していくことにした。まずは、今の「P T A専門委員会」を廃止し、新たに「地域連携協働サポートセンター」（愛称；ちいさぼ）を立ち上げた。メンバーは、執行部役員8名と公募という形で全保護者に呼びかけ、手を挙げてくれた8名の部員で構成されている。その中で、まずは主に今まで専門委員会が行っていた活動ごとに担当者を決め、その都度保護者から「ボランティア」を募集していく形になる。当初の話し合いの中では、「ボランティアに来てくれる方が固定され、特定の方にだけ負担が偏ってしまうのではないか。」「人が集まらなかったらどうするか。」という2点の懸念材料があったが「みんなが楽しくやって、子どもたちが笑顔になっていけば自然と活動の輪が広がるはず。」との思いからまずはスタートを切ることにした。後押ししてくれたのが、東山地区には、以前から「東山人と地域をつなぐ会」という組織があり、地域の協力が得やすい環境にあること。そこで、P T Aだけでは十分な人材確保が難しいときには協力を依頼できる横のつながり、協力体制もしっかりできている。年度末の成果に乞うご期待です。

アイデア実践

「ICTを生かせる学校に」

磐梯町立磐梯第二小学校 近野 典男

町からICT環境を整えていただき、学校としてもその期待に沿う活用をしていきたいと考え、実践してきました。どの学校でも工夫して推進してこられたことと思いますが、ここで私なりに校長として取り組んできたことを紹介いたします。

〈設定〉一人一人のタブレットへのアカウントの紐付け、GoogleClassroomの作成等の設定を町のICT支援員に依頼。

〈研修〉教員の指導力向上のため、県教育センター情報教育チームの出前講座を要請。専門研修に参加した教員への伝達講習指示。若手職員が開拓した技能を教え合う校内研修の場の設定。

〈校長自らの活用〉GoogleMeetで全校児童52名を招待してのミーティング。

〈リモート授業の指示〉出席停止措置の時のリモート授業指示。（「『GoogleMeet』で授業の様子を映しておくだけでもよいので」と指示して始めましたが、先生方の探求心により技能が向上し、双方向でのやり取りが可能となりました）

〈称賛と励まし〉教室訪問の中で積極的な活用が見られた時は称賛して意欲付け。

〈広報〉学校だよりやブログでの紹介。

〈町への要請〉フィルタリング設定導入やポケットWi-Fi貸出制度等の要請。

これらの取組の中で特に感じたのが、若手職員の多くはタブレット活用に抵抗がなく、どんどん応用して可能性を広げていることです。この分野に関しては先輩職員が教えてもらう側になることが多々あり、これがまた職場の活性化につながっています。「まずは使いながら改善」をモットーに、職員からの動き出しが起こる環境づくり・関係づくりがこそ大切と感じました。

教育随想

「スクリーンの向こうの異文化」

会津若松市立城西小学校 横山 譲治

26年前に城西小で担任した子が、校長室を訪ねてくれた。「黒柳徹子さんとテレビ電話とかやりましたよねえ、今思うとホントかなって感じです。」 四半世紀を経て思い出してくれるのが嬉しい。

当時、城西小にテレビ電話とインターネット接続できるPCとがわずか1台配備された。郷土料理をテーマに沖縄とつないだり、人権をテーマに黒柳徹子さんと話したりした。ある時、環境をテーマに大阪の小学校とつないだ。発表内容はこっちが充実していると思うのだが、議論になるとどうも言い負けてしまう。「関西弁にのまれちゃってる感じです」と司会役の子がぼつり。やってみて肌で感じることなのだと思う。

そんな文化交流的な刺激、学びの種を、地方の普通の学校でも提供してやりたいと思いつけている。自然が豊かで伝統が息づく会津だから、異文化とクロスさせる経験をさせてみたい。指導主事、教頭、校長と職が変わっても、思いは変わらず細々と取り組んできた。ただ、複数学級の大きな学校では機会均等の配慮のため、担任のときのように強引にはできない。2つ前の勤務校で佐渡の小学校とつないだきりだ。

さて今年、ZOOMも定着したし、城西・小金井の6年代表と四中の3年代表とで、先輩から後輩へメッセージなんていうリモート会議をやってみようという提案している。大人も「やってみよう！」なのだ。



教育随想

「より多くの目で」

会津若松市立河東学園 飯塚 秀一

昨年4月に、義務教育学校として開校した本校ですが、5・6年生の一部で教科担任制を導入しています。

今年度は、5年生においては、国語科、算数科を互いの担任が行い、理科は主幹教諭補が行っています。6年生においては、担任と担任外、後期課程担当教頭や主幹教諭が全ての教科で教科担任をしています。

昨年度の6年生の教科担任に関するアンケートでは、97%の児童が教科ごとに先生が替わる授業が楽しいと答えています。また、専門の先生が詳しく教えてくれるのでわかりやすいとも答えています。今年は、教員数も増え、前期課程の教職員を中心とした教科担任制をとることができています。

地域学校協働本部事業やPTA、学校運営協議会の皆様方とも連携して、義務教育学校の特長をいかし、より多くの目で子ども一人一人を認め、担任間の交流により子どものよさや可能性をどんどん伸ばせるように、すべての教職員で子どもたちを見ていき、一人一人が持っている能力を十分に発揮できるように、2年目を迎えた学校運営をしています。



各部活動の計画

《 行財政部 》

会津若松市立松長小学校 星 尚志

部を預かって2年目となりますので、今回は私自身の思いをお伝えします。

5月に行われた教職員配置や教育施策などの調査は要望活動のベースになるものですが、赴任したばかりの校長にとって勝手がわからず、大変な思いをしたはずです。私も教頭等に助けていただいたことを思い出します。ただ、この調査に回答することは、早い段階で学校の状況を可視化できるという利点につながります。知り得た情報は、その後の学校経営を思案する上で必ず役立つ貴重な資料となります。〆切まで時間がなく苦しい思いをさせてしまいましたが、調査の隠れた意味を皆様方と共有できればと思いました。3種類の調査について、ご協力いただき心から感謝申し上げます。

《 研究部 》

会津若松市立城西小学校 横山 譲治

県小学校長会北会津支会は3班編成で、第1分科会「経営・組織・運営」の視点2、第3分科会「知性・創造」の視点1、及び第10分科会「社会との連携協働」の視点1を担当して研究を行います。加えて、次年度に控えた県研究協議会会津大会に向けた準備を進めて参ります。

研究部のメンバーは、高原 昇[東山小]、酒井 央[川南小]、武藤盛男[緑小]、吉野 徹[猪苗代小]、菅家 篤[磐一小](※敬称略)です。感染症の推移により見通せない点が多々ありますが、学校経営の質的向上につながる実践情報の共有となるよう、研究部の活動を推進して参ります。今後とも校長先生方のご協力をよろしくお願いいたします。

《 生徒指導部 》

会津若松市立神指小学校 高橋 由江

コロナ感染症の収束が未だ見られない状況の中、いじめや不登校の増加が益々懸念されます。問題行動の未然防止・早期発見・早期対応に努め、子どもたちが安全・安心に学校生活を過ごすことができるようより一層、いじめや不登校が起きにくい集団作りに組織的に取り組んでいく必要があります。今年度も「生徒指導上の諸問題」に関する調査へのご協力を頂き、「生徒指導部だより」としてお知らせし、課題の共有化を図りたいと思います。

令和4年度は、以下の5名の部員で活動します。よろしくお願いいたします。

◎高橋由江(神指小) ○武藤盛男(緑小)

・唐司和彦(荒舘小)・古川徹(門田小)

・古川奏子(翁島小)

《 広報部 》

会津若松市立城南小学校 大塚 進一

今年度も、会員の皆様のご協力をいただきながら、広報「北会津」を154号から156号までの3回発行させていただきます。皆様どうぞご協力よろしくお願いいたします。なお、経費の節減、多忙化解消のための効率化を考え、大変失礼ではありますが、原稿依頼及び原稿提出、発行について、データでのやりとりとさせていただきます。何卒ご理解の上、ご了承いただければ幸いです。それでは、今年度の広報「北会津」の発行をお楽しみにしてください。最後に、広報部の6名の部員を紹介いたします。よろしくお願いいたします。

◎大塚進一(城南小)・半谷満成(一箕小)

○高久賢一(千里小)・笠原 聡(永和小)

・飯塚秀一(河学園)・近野典男(磐二小)